

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鳥栖市立鳥栖小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「話し合う活動」「振り返り」を授業に取り入れ、学習の習慣化を目指した。「話し合い活動」や「振り返り」が「学び」につながったと児童は肯定的に捉えている。しかし、学習状況調査からも分かるように、「思考力・判断力・表現力」に課題が残った。 令和2年度よりコミュニティ・スクールとなり、地域と学校が一体となった児童の育成を目指す方策を練ってきた。「挨拶」「感謝」をキーワードにいくつかの取組を進めてきた。また、コミュニティ通信等により少しずつ、地域から認知されつつある。 特別の教科道徳を中心に学校教育活動を通じて児童の「心の教育」を行ってきた。議論し考える道徳授業に取り組み、道徳で学んだことを生かそうとする児童は増えた。 教職員個々が業務の効率化を意識しながら、業務に取り組んできた。時間外勤務時間も昨年度より減少することができた。
2 学校教育目標	<p>心豊かで、たくましく、自ら学ぶ”とすつ子”の育成</p> <p>○やさしいつばい</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを考えて行動できる子 社会や地域に目を向け、多様性を認め、人や自然を大切にできる子 <p>○元気いっぱい</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康安全に気をつけ、体を鍛えることができる子 よいことを進んで行い、きまりやマナーを守ることができる子 <p>○やる気いっぱい</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで学ぶことができる子（学び合い、発表、学習規律、家庭学習、読書） 予想を立て、筋道を通して考え、根気強く解決することができる子

3 本年度の重点目標	<p>(1) 「鳥栖市教育プラン」の「鳥栖スタイル」の推進</p> <p>(2) 学力向上の推進</p> <p>(3) 開かれた学校づくりの推進</p> <p>(4) 特別支援教育の推進</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目							
重点取組	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	・マイプランの成果指標を達成した教師の割合は79%だった。 ・すべての学年で、各教科の授業の中に話し合い活動や自分の考えを書く活動を取り入れ、実践している。	A	・マイプランの成果指標を達成した教師の割合は「できている」「だいたいできている」を合わせて98%だった。 ・各教科の授業の中に話し合い活動や自分の考えを書く活動を取り入れることができている。今後は質の向上を図りたい。
	○基本的な学習習慣の定着と家庭学習の質・量の向上	○学年に応じた家庭学習時間を達成している児童の割合75%以上 ○自主学習に取り組む児童の割合80%以上	・家庭教育の手引きを発行し、家庭学習に対する意識の向上を図る。 ・発達段階に応じた自主学習に取り組ませ、主体的に学ぶ児童の育成を図る。	B	・学年に応じた家庭学習の時間を達成した児童は70%で、目標の75%には少し届かなかった。 ・3年生以上の学年では自学ノートを準備し、毎日もしくは週何回かの自主学習に取り組んでいる。	B	・学年に応じた家庭学習の時間を達成した児童の割合が75%で2学期より増え、目標を達することができた。 ・発達段階に応じた自主学習の取り組みを行っている。多くの児童が進んで取り組んでいるが、意識の差が大きく、あまり取り組めていない児童もいる。意識の向上に向けた手立てをとる必要がある。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートを実施し、「授業を通して自己を振り返り、今後の言動について考えることができた」児童80%以上、「考えたことを実践することができた」児童70%以上を目指す。	・全学年で年間1回以上保護者の方に道徳科の授業を公開する。(ふれあい道徳) ・学級の人間関係作りにつながる取り組みを行う。(ありがとうカード)	B	・アンケートを実施した結果、「授業を通して自己を振り返り、今後の言動について考えることができた児童」74%、「考えたことを実践することができた児童」69%であった。授業で完結させるのではなく、学校生活の様々な場面で道徳的価値について触れて指導したり声かけをしつづけていく。 ・1学期は授業参観がなかったため、2学期以降の授業参観で、ふれあい道徳を実施していく。	A	・アンケートを実施した結果、「授業を通して自己を振り返り、今後の言動について考えることができた」児童83%、「考えたことを実践することができた」児童80%であった。どちらも目標の数値を超えた。 ・11月の授業参観でふれあい道徳を実施した学級は7学級であった。1月の授業参観で実施可能な学級は取り組めるようにした。また、道徳の学習について保護者の方に発信するために学級通信への掲載などを呼びかけていく。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを確認・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・資料提供を年間に3回以上行う。	B	・8月の職員アンケートでは、「いじめの防止等について組織的対応が(だいたい)できている」という回答が100%であった。しかし、対応マニュアルの確認・見直しやいじめ事案が学校全体で共有できていない等の課題があるので、今後、取り組んでいきたい。	B	・新型コロナウイルス感染症に関わる差別、いじめ防止等の研修会を実施することができた。 ・事案については、連絡会で随時共通理解を図ることができた。 ・いじめの認知・覚知の対応マニュアルについては、認知のレベルのすり合わせを行いながら、共通理解を深めることができた。
	○教育相談の充実	○教育的配慮を要する児童に対するチーム支援を行う。 ○必要に応じてSCやSSWにつなげる。	・職員連絡会や子ども支援会議で配慮を要する児童の実態を共有し、支援の在り方について共通理解を図る。 ・子どもが話しやすい環境づくりを行い、関係機関との連携を図りながら、児童の実態に応じた支援をする。	B	・児童が学校に登校しやすい方向性を第一に考え、保護者やSCと話し合いながらチームで支援を進めることができた。さらに支援が必要になる場合は、SSWも繋げていく。	B	・SSWに繋げた児童が1名いた。また、支援が必要な児童に対しては、担任やSCと連携し、チームで支援の方向性を考えることができた。長期休み後は、心理的な面で支援が特に重要と感じたため心の健康との向き合い方について指導していく。
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上の児童生徒60%以上(小学校60%以上、中学校80%以上の数値で学校の実情に応じて設定) ②「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上 ③児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	①年間2回、全学年でクラスマッチを開催し、練習を通して運動時間を確保する。学級の児童全員で外遊びをする「みんなで遊ぶ日」を1週間に1回以上行うことを推奨する。 ②栄養教諭と学級担任とのTT授業を行い、食事の大切さを認識させる。給食日より食育の掲示物を通して、児童・保護者への啓発を図る。 ③登校時の指導(歩行指導、道路横断の指導の仕方を含む)や一斉下校指導、交通安全教室などを通して安全指導を行う。	B	①昼休みに外で体を動かして遊ぶことが1日もないと回答している児童が全校で18%いた。各学級でみんなで遊ぶ日などの機会を積極的に設けることをさらに推奨し、児童が運動をしている自覚をもてるようにする。 ②栄養教諭と学級担任とのTT授業は、3年と6年で実施できた。 ③学校アンケートでは「健康に食事は大切である」と考える児童生徒が93%だった。 ④今年度は、コロナのため登校時の指導ができていない。登校・下校を充実させる内容や声掛けを考え、日々学年・学級で引き続き指導していく。	B	①みんなで遊ぶ日の推奨と、クラスマッチの実施の結果、昼休みに体を動かして遊ぶことが1日もないと回答している児童の数は全校で12%となった。児童の学校の運動時間は、概算で1週間あたり1人110分程度確保することができた。来年度も引き続き、学級全体で外遊びの推奨と、クラスマッチの実施を継続していくようにする。 ②栄養教諭と学級担任とのTT授業は、全部の学年ではできなかったが、学級担任による食育の授業はできた。家庭での食育として、「鳥栖っ子チャレンジ」に全学年で取り組んだ。2週間取り組んで提出できたのは、85%の児童だった。3年生以上の児童は、食育標語作りに取り組んだ。 ③登校時や下校時に怪我をしたり、石投げ、石蹴りをしたりする児童もいた。安全に気を付け、交通ルールやマナーを守って登下校するよう指導していく必要がある。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○衛生・安全管理の改善・充実	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。 ○職場の事故0を目指す。 ○メンタルヘルス不調を生まない。	・曜日毎の施設時刻の設定。(金曜日は原則として定時退勤) ・業務改善案を募り、積極的に業務の改善を図る。 ・定期的に職員室等の整理整頓と環境美化の時間を設定する。 ・ラインケア、セルフケアの両面から職員のメンタルヘルス対策を行う。	B	・曜日毎の施設時刻の厳守は、ほぼできている。金曜日の定時退勤は、あまりできていない。 ・超過勤務時間45時間以上の職員は、毎月、半数近い。 ・職員のタイムマネジメントの意識を高めると共に、業務改善を小さなことから少しずつ取り組んでいく。	A
				B	・定期的な職員室等の整理整頓ができなかったため、不必要なもの、緊急性がないものは、廃棄を進めていく。 ・今後も学年主任や特別支援コーディネーター、養護教諭と連携を図りながら、職員のメンタル面を注意深く見守っていく。	B	・資料室に保存してあったこれまでの文書等を整理した。空いたスペースを利用していくことで、職員室内の整理整頓にもつながった。 ・今後も、課題や悩み等について相談しやすい職場の雰囲気をつくっていく。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報(学年便り、学級通信など)を年間3回以上公開した学級率80%以上	・保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開を全学年で年間1回以上行う。 ・保護者等に対する教科「日本語」に係る情報(学年便り、学級通信など)を年間3回以上全学級が行う。	B	・1学期はコロナウイルスの関係で授業参観が行われず、公開することができなかった。 ・「日本語」に関わる情報を各学年学級懇談会資料に記載した。今後も各学年のお便り等を通して情報公開を行っていく。	B	・今年度2回しか授業参観を行うことができなかった中で、全学級ではなかったが、どの学年も1学級以上、教科「日本語」の授業を公開することができた。 ・教科「日本語」に関わる情報を毎学期、学年懇談会資料に記載することができた。(年間3回)
	○研修会開催 ○個に応じた支援体制 ○関係機関との連携	○特別支援に関する教員の意識・技能の向上(自己評価80%以上)を図る。 ○一人一人のニーズに合った支援を行うため、個別の支援計画を100%作製する。	・特別支援に関する研修会を学期1回以上行う。 ・個別の支援計画を前期後期に分けて、年間2回作製する。	B	・気になる児童の支援については、研修会を開いたり、必要に応じてケース会議を開いたり、個別相談しながら進めることができている。支援方法の理解は進んできているが、個別の具体的な支援方法の必要性を感じている。 ・個別の支援計画については計画的に作成ができている。	A	・研修会及びケース会議、個別相談を通して特別支援に対する理解、意識・技能の自己評価が100%近くあり、向上が見られた。 ・個別支援計画は、本年度の成果と課題、そして来年度の前期への引き継ぎを計画的にできた。
○開かれた学校づくり	○学校運営協議会の取組の推進	○目標の設定と保護者、地域への啓発。	・学校運営協議委員との連絡を密にし、連携しながら学校運営を行う。 ・コミュニティ通信や学校HPの中で、学校運営協議会の取組を紹介する。	B	・学校運営協議員には、学校運営改善のためのご意見を頂いてきている。今後も学校教育情報を通信やHPさらに直接お話をさせて頂く機会を設け、共に課題の改善にあたっていく。	B	・学校運営委員会が進める地域と児童を近づけるプロジェクトを始めることができた。しかしながら、地域や保護者をまきこんでの活動とはなっていない。共通の目標の明確化、保護者や地域との目標の共有を行い、実践する組織の立ち上げ等、今後も大きな課題が残る。

●…県共通 ★…鳥栖市共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・【学力向上の推進】本年度も、学習課題の提示の工夫や話し合い活動を重点的に取り組んできた。その成果は学習状況調査や学力向上評価シートからも分かるように着実にあがってきている。また、学年に応じた家庭学習や自主学習についての目標もおおむね達成することができた。今後は、さらなる話し合いの活動の質(目的や関心など)の向上のための方策が必要である。家庭での自主学習についても、どの児童も意欲的に取り組めるような学校全体での工夫も考えていかなければならない。</p> <p>・【開かれた学校づくりの推進】コロナ禍において、多くの保護者に児童の授業での様子を見て頂くことが難しかった。今後もこのような状況が続くならば、各種お便りやHP等で広く保護者に伝えていく方法を講じていきたい。また、学校運営協議会においても地域と学校を結びつける活動を計画できていたが、同様に具体的な活動はできなかった。来年度は、各学年や各学級ごと地域との交流を深める方策を練ってきたい。</p> <p>・【特別支援教育の推進】今年度も、特別支援教育への理解と配慮を要する児童への支援は、特別支援教育コーディネーターを中心に複数の職員及び外部の関係機関が関わり進めることができた。来年度も一人一人の特性や傾向を理解し、複数の教員が役割をもち、児童への細かな支援を心掛けていきたい。</p>
--------------------	---